

この選手誰だっけ

2014.03.10

ツアー・オブ・カタールは平坦な、まったく平坦な果てしなく続く直線道路を横風の中で走る競走です。コーナーを曲がった瞬間に、それまでの追い風が一気に横風になり、集団がずたずたに分断されてゆきます。昨シーズンの不調から復活してきたトム・ボーネン選手のハンドルには、風向きが変わる可能性の場所（つまり、コーナ）の距離が記入されていました。集団が横風でずたずたに分断されて、再構成されて、先頭集団、追走集団、完走狙い集団などに分断されます。毎日毎日先頭集団に残り続けることは大変な実力、努力が必要だと感じました。万が一エース選手の位置取りが悪く、追走集団に取り残された場合、アシストマンを動員して、全力で先頭集団を追いかけます。無論、先頭集団もエース選手をつぶせば順位が上がるので、全力で逃げを維持するように努力します。それぞれの集団の中で斜めの隊列に入らせてもらえるかも、実力次第です。とてつもなく厳しい競走です。

2013まではチームタイムトライアルを実施していました。今年は第3ステージとして、2018サッカーワールドカップ会場付近で個人TTを実施しました。全くの平坦と直線コースです。チーフコミッセルが監督会議で珍しい（藤森には）提案をしました。そして、監督たちの指示を受けて実施しました。こんな提案です。

通常通り、前日までの成績の逆順で選手が発走してゆく場合、同じチーム員が連続してしまう場合があります。通常のステージレースでは、せいぜい数名が連続する程度ですので、連続する部分の数名の選手の部分を入れ替えて、発走順とします。コミッセルの仕事です。この操作で、第2チームカーや共通機材車を動員して、ほとんどの選手にチームカーのサポートをつけることができます。

平坦横風での集団の分断と逃げ切りはチーム単位の仕事という面が強く出ます。チーム単位で個人総合成績上位にまとまって送り込んでいるチームと、横風に吹き飛ばされてグルペット（完走狙い集団）に選手のほとんどが送り込まれてしまったチームとに分かれてしまいます。競技規則通りの連続する前後数名の入れ替えでは、第2チームカーを動員しても、チームカーのサポートのない選手が出てしまいます。

そこで、チーム内最下位の選手のグループ、チーム内下から2番目の選手のグループ、以下チーム内最上位の選手のグループまでの8グループに分けて、グループ内の発走順番は各チームの一番成績の良い選手の順番としました。最終選手がリーダージャージーになることは規則通りですし、全員がチームカーのサポートを受けられることで、監督さんたちも満足でした。なるほど。

また、一部の監督さんから、エアロヘルメットを使いたいというのが要望も出ましたが、事前にエアロヘルメット使用の可否を明示していなかったため、不平等が発生することを重視して、エアロヘルメット使用禁止としました。監督さんたちからは何も不満が出ませんでした。さすが。

フランス人の一人がスターター、藤森ともう一人のフランス人がコーナーに位置取ります。見通しの良い直線のコーナー前後の往路、コーナー前後の復路4回チームカーの挙動を確認する配置です。チーフのオランダ人はスタートゴール地点で全体指揮。十分な数の審判がいると、審判がチームカーに乗り込むこともあり得るのですが、今回は少ない審判を最大限に活用するために、地上配置とする判

断のようでした。藤森はゴール約900m手前の最終コーナーに配置。

個人TTの競技運営で、審判として何を一番心配しますか。どんなトラブルが起こりうるトラブルでしょうか。

10.9kmの個人タイムトライアル、1分間隔で上記の出走順の場合、かなりの確率で追い抜きが発生すると藤森は予測しました。ゴール通過した選手の1/100秒まで正確に計測しているのですが、追い抜いた選手、追い抜かれた選手を取り違えてしまうミスです。トランスポンダーが動いている限り、今ゴールを通過した選手が誰だったかわからなくなる不安は少なくなります。が、機材故障でトランスポンダーなしの機材がゴールを通過する場合もあるでしょう。

と藤森は心配して、概算手動計時を実施していました。ゴール後計時員と確認するためです。実際にはそんな心配は不要でした。失礼しました。一番時計は第1順（つまり、チーム内順位最下位）で走った若いエース番号のオーストラリア選手でした。最終選手まで近いタイムは出すのですが、一番時計を最後まで守り抜いてしまいました。自分の計時が正しかったのか、やや不安で本部に戻りました。そしてやはり、若いオーストラリア選手が優勝です。

また、ゴール900m手前ですので、2名以上の選手とチームカーが追い抜きをしている状態で、選手が並走状態でやってくることも想定しました。どのチームカーも、どの選手も競技規則通りの動きで全く問題がありませんでした。競技の水準が違うということなののでしょうか。競技としては無事終了。

宿に帰って、コミュニケを受け取って、ドッキリ。中間タイムが記載されていました。やっぱり我々は追い付かない。国内で10km近い個人タイムトライアルステージがあるステージレースはごくわずかです。中間タイムまで公表してくれるタイムトライアルステージはさらに極々僅かです。あるのでしょうか。2days race in 木祖村 2014では実施したいものです。

ステージを優勝してしまえば、優勝選手の経歴が流れてきました。今年のオーストラリア個人タイムトライアルナショナルチャンピオンなど、優勝しても不思議ではない成績ですが、発走順の早い選手でそんな選手がいるのですね。第2ステージまでは個人総合成績140位、24分20秒遅れといった具合でほとんどグルペット集団に沈んでいました。以降のステージ成績でも先頭集団にはついに名前を見つけることがありませんでした。どういうことでしょうか。

こんな風に考えます。脚はある。十分にある。けれども、横風の中の斜めの隊列に入り込む技術、経験がない。勝負所以前で無駄足を使ってしまい、勝負所ではグルペット集団に振り落とされてしまう。技術も、経験も実力のうちということでしょうか。技術も経験も経験した回数と経験した水準が大きく影響します。審判についても同様と考えてよいと考えます。